



地方板集成

四

7保8
9.347
4



門 3
號 3.347
卷 4

地方採集成後篇卷之四

目錄

序編之款

菓子衣類雜等沙制度之事

折銀割銀通用之事

道中往來之事

隱疾炮之事

四季并月切換炮之事

孝行奇特人之事

酒造 三合一造之事



寛政元四年

田叔之幸

寺院一國一郡一付書之幸

諸色直長下進可任との事

浦々不操伊願之幸

茶種極進之幸

酒造休櫛も更加元向も有之幸

朝鮮人多之幸

一家人或心取人少事傳之幸

野列阿久津河原之幸

水油並候高進之幸

水車之幸

地方振集成 卷之四

- 一 石受ニ子間掛リハ高要ニ菓子敷白後ニ高要中ハ
是近梅来ルルモ亦止マレハ
- 一 火車羽織取中経掛ルルハ細雪用ハ并町方大車物
纏錫箔布用ナリ事
- 一 能装束甚結構成モ亦見ル白存怪クマ後ハ并女々
衣類モ大造ニ織物造物ニ知無用ハ事
- 一 七由リ草蒲甲刀モ此板ニ敷金縁カス、との并

箔用の申す事

一 雜並もてあそび人形之類八寸以上二寸以下無用後
右以下二寸ハ扉末ニ金入らん其類ノ衣裳末ハ
苦一ツツツツ事

一 雜道具梨子地ノ勿簿符絵ニテ致下ノ如キ
用ニ事

一 極葉かん子ノ等金ハ度而シテお成ハ銀籠甲も
大造ニ母ノハ不若先目五ハ四ツリ細工入組ハ言事
亦去賣買堅ク信一止ニ事

一 キ、セる其外もてあそび同前ノ如キ金銀をモル

申す事ハ并符絵等結搦ニ御事也

右ノ金急ニ事有ハ惣奢多ノ不極申す事也
元禄享保年中一編ハ後又此類及右ノ如キ
作也此今ハ商人仁入事ノ如キ當年限賣
買ノ類ハ事申す事ハ書面ノ事賣買信止
多クハ信止ノ事自今若あつらひハ
有ハハ行取ノ事個々事ニ類ハ所方ハ右編ノ事
ニ事也

一 折銀割銀ノ儀是近上綱銀包方ノ常是
少クハ折割銀焼銀ニ事也省キ包方ハ事也

此得其以來之 銀走勿備之七分と云ふ 折銀割銀并
燒銀走換平一向五分去換別一と云ふ事も 換平五分
の分ハ無捕上細銀五分 包一の細肯共知銀

作也名其長五寸の世上多利世其長支或長四五寸
九引之銀の勿備八分より一割割銀并
燒銀走換平一向五分の如く少くは燒銀も
圓月銀の如く五分の京大板江戸銀並或は
為之の銀走下買く事の方ハ定法と歩合
方と取也之の中ハ 右去先達分より 右銀の如
也兼銀走場引上之 法色高價と云ふ 若民銀儀

之事ハ付世上圓月銀走場之を 一統と高と云ふ
丁銀の如く 作付前書之銀走場儀 丁銀
取持く事ハ其版丈之歩掛第一持圓銀の如く
清銀意と云ふ并若圓月之版分と云ふ 又志
歩合銀之如く 銀走場之如く 以集之上と云ふ 如く
之中付也

一 清用と云ふ 市中往來之如く 清用常 人馬之如く
人馬多くおき之中 歩合之如く 歩合之如く 歩合之如く
人馬之如く 歩合之如く 歩合之如く 歩合之如く
一 清用平 貞越之如く 入人言之分 其清用定之 歩合

五右衛門急を去る拂下り事

一 湯用三分供来りし物或ハ在敷或ハ大石也在申
供来りし事人馬割り後人馬をりし事

御来市人馬在供人言の入程も在也 供人馬に
供錢五右衛門 去拂り後人馬割後四馬揃へ
委細以俵ハ申一ハ物中付一ハ是物也人言書
此物一ハ去辰年去拂り無 無忘 却官渡在在
供錢急を去拂り後 家来 米 産 一ハ物中付
有る事

一 供来りし物其家来未末く産人足とも近事也

主人に権威忘及申 事此物に仕方等有る
或ハ物に事代り人足産 或ハ自分も可持及具
人足と書持事とのハ馬 此物に系 供錢在も
去拂り又去宿とのハ物一 此物に係中掛
若一書りしもの中 有る事 此物に係一 此物に
去拂りし物 向後去 系大坂江戸 去産人足法直
この物に係在 画し 去申 此物に係 子細有る
去代り人足産 又去馬 此物に係 去りし物
此物に係 銀 五右衛門 去 此物に係 去 自是
以後 不法 去 此物に係 去 此物に係 去

雇ふものたりし主人の姓名をよみて姓名承乳
或は其後人重なるものありしに及ばず
其後人重なるものありしに及ばず
法自人重なるものありしに及ばず

一 姓承りし面く之を承りし者之に及ばず
法等之を承りし者之に及ばず
不在意之を承りし者之に及ばず
法又之を承りし者之に及ばず
儀とし承りし者之に及ばず
富くし承りし者之に及ばず

一 諸荷物貫目之事
貫目改むるに及ばず
あつてハ貫目ニ意一
法下之を承りし者之に及ばず
海等之を承りし者之に及ばず
其外商人荷物之文帳
自由之荷物も此定之通

一 道中宿るにもの子持をくはるる旅人二其の其正に
 岡原年事少き二日旅三日話も正奇又夫海松
 之宿二階宿と云ふは傳し有る由事付のたふし宿
 への石煙し伝方多しはとも四屋年事少き正奇
 にも去る者く人少き如く市利も是れ其の事しは言
 句後夫の屋年事少き正奇は傳し其の事しは言
 為階宿と云ふも止ませし後八道中を行は
 ず達すは以て論議の上名を二つに分ち其
 心付て有るは事し

一 旅人の内は是を傳し石法を傳有るは宿ちく

一 旅人の中は是を傳し石法を傳有るは宿ちく
 旅人二其人其後旅人中の宿りし事も正法に
 節のりて是宿事とも又ハ姓名承へ道中を行は
 海松之宿名并ハ伐定正の傳も十人し旅二誰し
 一五五斗の正奇者くはし伝るは是又正奇に宿事
 一 所人の會存を傳し一武家之宿物に宿り傳るは
 其中の自今正奇可宿事也
 一 川く流御之儀會正に正奇し川旅人正奇宿り
 旅人二正奇に宿るは正奇正奇正奇正奇正奇正奇
 旅人と其正奇正奇正奇正奇正奇正奇正奇正奇

一 以子傳之 作付お勤之由之其年分之今之由
田年之ふ及事

但有年いつ之七十年延とも之今之年 却人言の田は
一の中心を利控の子及平年之通田はとも是又
子之由事

一 田年之備成丈執ると之後之執る之今之年之
該整之波事

一 悉成年分田は種は 作付之今之年分田は備成
是又子之由事

一 田藏等之及運感之属も有之 向ふ田藏納之由

而之夫之統之由何の田藏之及之其時之何之由
の事 作付之由事

一 詳信有之而之皆保也之田年之由事 獲之得
本定石之通田はとも是又子之由事

一 兼而之 作付之酒造之備之造 既遠之無之種考重
之及之穀根之費一之 江戸之古飯其由之
田年之由事

一 年之田言等定之奉行はとも是由事

酉九月

一 田年之物入お重りり之由何打續り之由考之救節之

是太三行八の月進出候約之属也 作如了下也

天下之準備は子為之有し、以て夫不本保為之也

思石山候之享保之例、若上納米して、作付之費

當時亦必多し、有し候且凶飢等、有難候之

御之し、及此妙法、以て然るを、準備之

儀、之を常時、以て候約のことに、其の事

言、作付概し、無し、以て言、其万石、存貯、之儀、在り、刻石

を、以て、東、西、年、迄、五、ヶ、年、之、旨、而、以、候、也、被、

因、年、中、以、候、也、 作如、也、 公儀、に、お、て、し、在、候、也、是、

事、備、米、と、候、也、 元、來、此、事、に、以、候、之、儀、之、旨、

至、願、也、而、以、候、也、之、を、天下、に、以、候、之、を、事、以、候、也、

御、安心、之、儀、に、 思、石、山、天下、に、以、候、也、之、を、事、以、候、也、

勿、論、之、儀、其、儀、也、非、常、に、之、を、以、候、也、妙、法、に、被、

有、し、候、也、之、旨、一、統、御、儀、在、用、に、在、候、有、用、に、

備、向、等、也、之、旨、心、也、

一 去、未、年、の、三、ヶ、年、之、旨、以、候、也、 作、如、了、下、也、以、候、也、

御、定、宥、了、也、之、旨、以、候、也、 元、來、此、事、に、以、候、也、妙、法、に、被、

有、し、候、也、之、旨、一、統、御、儀、在、用、に、在、候、有、用、に、

備、向、等、也、之、旨、心、也、

之、旨、也、 老、中、折、清、之、儀、に、之、旨、被、

有、し、候、也、之、旨、也、

一 同改

當時通年

同幸才子

某

曰

何人

右亦何之乎似分無本幸之幸既山伏無也

月 日

何 誰

一 四年法也言也言一統冠儀之可也右去也
卯年不也一打讀年也後之也也九年平教也

以之他り出—以教之句備—濟其年法也
年教と元—々五師也々々々々法也年也
准—言下有之儀也云余儀了云云
長之他方直也去年去、年平也後換別下也
師年も法也也後去其後、子月下後重買又去
其不云の也事也云年法也也後、言下也、有之
平等也年方直也也、主信也後、引下教也
有之平也也、利也、心也、言也、儀也、子也、
子也、教也、法也、仁也、其元也、後、也、
—て下也、也、同也、中、實、也、—、高、方、一、賣

等し不増之くお趣し利徳を乞ふ事柄なり
一師互に志均すしゆる事也價に准し一孫引
引上り事七之事故及理に由一統引下り書費
致し之を不増七回根に事し一統引潤ひと
五加儀に多白商人方しとの先原忠好可中
儀にそ今年事七お趣ある最去に卯年より年
價言出之為上しそ先支右趣五引書夫より年價
引下り陸の流多し趣候七引下り根仕入元と始
間屋中買着夫と商賣方しとの先急事し由
右通中月以上七一向と留し流に由其の師にあり

無事清曲事二十付の地流國にりしお節りり日
流多仕入元趣候引下り事一或ハ買入おしお持
お事しし之所より年事商人ともお仲りし事た左
了海の海物より編備の事候と根ひ多し一幸し
し事し事出書候も之よりし不海候其候打控
事しし是又二の清曲事一由

戌二月

右通所、并盡國流事行亦在、由し書候事由
一候、自私候矣、之候、自一統、上書流、之趣、國
産、等元、趣、引、下、り、方、之、由、流、之、書、書、賞、之、由、也、

儀之、高列、掛り、後人、等、中、何、存、無、揚、禮、言
中、何、以、在、儀、言、夫、町、在、何、以、事、定、在、新、亦、一、り
右、掛、金、の、事、も、言、之、以、上、元、並、辰、亦、不、以、下、額
其、中、以、下、其、所、主、一、制、令、為、重、亦、一、り、百、石、以、上、
其、中、以、下、其、所、主、一、制、令、為、重、亦、一、り、百、石、以、上、并、
其、中、以、下、其、所、主、一、制、令、為、重、亦、一、り、百、石、以、上、并、
其、中、以、下、其、所、主、一、制、令、為、重、亦、一、り、百、石、以、上、并、

一
此、年、浦、に、不、獲、獲、干、鰯、魚、摺、掛、底、二、年、並、辰
言、之、以、下、因、細、肥、養、一、他、兼、之、也、古、中、の、身、極、傷
五、板、伊、奈、福、津、と、い、ふ、所、有、の、以、上、之、濱、細、五、五、言
其、年、有、一、の、以、上、細、細、の、一、可、以、の、麻、其、等、敷、之、外

船、及、其、中、流、急、並、辰、引、三、沖、合、水、主、流、金、也
言、之、以、下、右、壁、浦、に、細、主、實、令、細、儀、以、右、也、大、
言、之、以、下、己、年、夫、右、漁、獲、一、件、入、用、一、流、急、並、辰、夫、
勿、備、水、主、流、金、也、並、謂、引、之、以、上、の、事、細、名、為、の、事、一
右、言、之、以、下、右、曲、事、の、氏、藏、上、總、下、總、上、野、下、野
常、陸、右、六、ヶ、國、の、内、西、科、夫、以、代、之、長、和、以、夫、隨、至
地、民、占、之、一、儀、也

一
五年、凶、作、獲、多、也、二、三、年、等、年、他、方、多、分、宜、也
二、背、凶、作、之、備、等、七、自、然、と、等、年、之、事、如、此、の、儀、也
昔、年、夫、事、甚、遠、引、下、り、一、統、額、儀、一、事、一、也、

當年洋書題もいふ成文を採りて一書に
紙分を所等りしを去る後其意を著ししもの
是又因年等い第一に紙格を二行分り
公儀より當年夫を抄等し多分と
三行分りしもの 一冊也

一 唐書茶種数前、右茶種数土記、伊救の
作付候之趣、今より度極下、伊救の
三版有るに右茶種数土記、少くも切紙
後者も有るに、極別者有りて、一冊も
要し紙拂底ありて、首と一冊も、いふに

渡り茶種、右記、高橋、切紙正、いふに
不とも不系又夫年種、今より度極下、伊救の
目録、茶種、右記、高橋、切紙正、いふに
通高、今より度極下、伊救の
依り、右記、高橋、切紙正、いふに
作付、今より度極下、伊救の
一冊、今より度極下、伊救の
多く、今より度極下、伊救の

平山古處之冥地年銀山向山有由由少少地也
追言及抄法其日甚名其地有平山在沙山料之
其地之奉新以成良和成其隨至地及より酒造
体操くよの平山也

一 朝鮮人參之儀辨之處之由より高直なり凡
程きよの及大福の命も容易き及いりり程
成り身享保年中より輕程程を人參
他種一之儀也世強き一之儀治身之增長也
當時其德國より作り見入在上に其より一
強之旨 公儀の他種一之儀付の儀以事

一 元正製法不産賣事止は是より之朝鮮種
人參他種之儀無謂にして一之儀成り其儀
去白御賣賣事止は其儀手治事也

寛政三年

一 近來町在及中の中三山家人或ハ此後人參
あり中倍彼是程感と推し押賞代錢等也
亦其辨由より其儀辨細より一其儀
不傳之事に以事不傳一之儀の押入其儀
より傳り以傳り上倍者より一其儀
若其儀不傳の事より其儀不傳事

一 粟列乃中白沃者。氏家富。間寇怒。川舟
 野州阿久津河原。近年法家。事新。等々。
 高柳。引。江。戸。回。一。波。一。旅。人。上。船。且。止。宿。
 有。波。以。後。中。舟。之。般。以。使。何。上。松。平。
 細。中。古。版。位。出。名。因。法。家。事。新。之。法。為。
 物。之。料。甘。法。為。物。如。播。而。旅。人。亦。取。且。
 止。宿。案。為。波。百。而。名。中。一。場。之。百。一。上。法。其。之。名。
 在。也。而。事。上。確。物。夫。是。也。一。事。在。也。得。了。也。
 一 水。油。並。使。之。並。之。法。人。種。為。一。事。舟。下。坐。之。
 一 可。在。也。先。年。分。而。之。在。也。以。後。之。法。在。之。

脂。子。之。名。拍。一。無。之。費。夫。都。有。一。某。種。
 涉。種。考。由。無。在。別。而。種。和。大。故。之。出。也。之。少。
 油。並。使。之。並。之。舟。粒。又。此。而。以。使。之。上。水。油。而。是。
 之。更。名。以。錢。減。少。之。付。是。又。某。種。新。種。大。故。
 表。之。回。而。上。設。油。而。組。合。買。上。之。名。在。付。之。當。其。
 石。並。之。傳。之。舟。白。後。由。一。古。故。之。亦。擲。別。泉。列。
 村。之。之。油。後。亦。是。在。後。亦。買。口。在。之。在。之。也。

擲別

老。原。取
 八。取。取
 武。原。取

此石故其... 州... 州... 州...

...

...

...

...

...

